

合意目標設定により満足感の向上に繋がった症例 ～患者立脚型評価 Hand20 を活用した介入～

中洲八木病院 尾崎 聖渚（作業療法士）

- Hand 2 0 を用いて課題を抽出し合意目標の再設定を行うことにより満足感向上に繋がった症例の報告である。リハビリ意欲が高く継続してリハビリを実施していたが、明確な目標設定がなかったため満足度は低下していた。個々の患者に合わせた課題の抽出と明確な合意目標の設定が満足度の向上につながることを示しており Hand20 の活用も有用と報告している。
- 回復期リハビリにおける患者の所見を作業療法士が、患者立脚型 Hand20 をもちいて評価し、ADL 改善に繋げた報告である。両側頭骨遠位骨折後の患者を対象としている。理学療法では FIM が導入され、医療分野の評価基準となっている。介護分野でも BI も多用されているが統計での効果判定を含め、客観的な評価を用いて効果を判定し、エビデンスとして治療法に確立されていく事になる。他の方法との比較、疾患言の比較も試されたい。
- 合意目標の設定は、行う人行わない人とは分けるのではなく、全ての患者に設けるべきで、患者に関わる全ての職種がそれぞれに設定していることだと思います。それは受け手側の満足度に直結する事だからです。Hand20 が有用なのであれば全ての患者に利用して欲しいと思います。
- 医療者と患者さんのゴールが違うことは往々にしてあります。医療者はあんなに悪いところからこれだけよくなったのだからいいだろうと、患者側は完璧に治らないと治癒とは言えない、と言ったケースです。しかし患者さんの満足というのは重要な評価指標であり、そこを軽視せず課題として取り組まれ、新しい評価の取り組みを導入されたことは、非常に意義のあることだと思います。この評価導入に当たって今後の継続研究があればぜひご教示頂きたいと思います。
- 発表お疲れさまでした。具体的な内容を設定して合意目標を共有することは本当に大切だと痛感しております。外来リハビリに行っているからよくなって当然だという家族も現在増えてきております。セラピストに与えられた時間は限られておりますので、Hand20 は満足感の得られるリハビリ加療の一助となるとと思います。当院でも参考にさせていただきます。